

PB-4 日常会話コーパスにおける文末表現「～って」の使い分けと音調について

—家族関係会話の事例を中心に—

リスマ・リスムラティ (大阪大学人文学研究科博士課程)

要旨

本稿では、話しことばによく用いられる文末形式の「～って」の用法に沿って、音調の特徴について考察する。山崎 (1996) によると、文末の「～って」は、「～って」を大別し、引用・伝聞・提題・強調の四つに分けられる。さらに、三枝 (1997) によると、文末用法については、「伝聞」「問い返し」「訴えかけ」という三つの用法が「んだって」や「だって」などの形式の「～って」の分類が特徴的であると挙げられている。ところが、実際に、日常会話で用いられる際、これらの用法を区別するのに、「～って」がどのような音調で発音されているのか明らかになっていない。そのため、本稿では、現代日常会話コーパスに見られる文末表現「～って」の意味用法を参考にしながら、それぞれの用法の音調を分析する。praat を活用し、各分類「～って」の音声データを分析した結果、文末表現「～って」の用法と音調の関係を示すことができた。

1. はじめに

「～って」は、一般に中止文、または省略、短縮形などと分類され、話し手の心的態度を表しており、文章の位置により、様々な意味用法を持っている。この中で、文末形式として用いられる「～って」は、引用、伝聞、提題、強調としての用法がこれまで多く研究されてきたが、それぞれの用法に伴う「～って」の音調については、詳しく触れていない。例えば、以下の例を見てみよう。

- ① 「スカイツリーに行こうって」 (CEJC, K009_002: 674)
- ② 「まったくもって」 (CEJC, K009_002: 1357)
- ③ 「チンパンジーがね 風邪引かないのは葱を食べるんだって」 (CEJC, K009_003: 151)
- ④ 「わざわざ飲むもんでもないなって」 (CEJC, K010_001: 520)

文章だけでは、それぞれの「～って」がもつ意味合いは、直ぐに当てはめられるとしても、発話者はどのような意図で発音したのかは、生の音声データを聴かなければ、想像がつかない。そこで、本稿では、自然会話に見られる文末表現の「～って」の用法に基づいて、それらがもつ音調の特徴を示すことを目的とする。

2. 先行研究

「って」の分析については、これまで多く研究されてきたが、次の研究を参考することにした。まず、守時 (1994) は、文末表現の「～って」を分類し、三つの用法に分けた。一つ目は、「～って」が発話や思考など言語表現に関わるものとされている。一人称、すなわち話し手が発話すること、考えたことを表明するような用法である。二つ目は、話し手の強い主張が感じられるものである。これは一つ目でみた用法に通じるものであり、話し手は自分の発話を何とか聞き手に聞き入れてもらおうと発話するような場面での用法である。最後は、それまでの談話の流れから「～って」が既になされた他の表現の言い換えになっているようなものである。この三つ目の用法では、「～って」は話題になっている事柄を、話し手と聞き手の間がより詳しく、正確に理解しようとするための表現手段と述べてきた。さらに、「～

て」は語用論的な機能を持ち、話し手が、情報源となる情報を談話の参加者が適切に理解していないと推測し、時には対話の継続が困難であると考えた場合に使用される。すなわち、「って」は、情報源の情報が適切に理解されていないことを示すという談話的な機能を持つ。同時に「～って」という表現を用いることは、「～」がコンテキストの中に正しく位置付けられ理解されることを望むという話し手の聞き手に対する意図を表すためとされた。

山崎(1996)は、引用の助詞とされる「って」に、大きく分けて引用・伝聞・提題・強調の4つの用法があると分類した。さらに、引用の「って」は、発話・思考を提示するものがもっぱらであり、「と」にくらべると用法は限定されているという。また、伝聞の「って」は、「って」が単独で用いられるものと、「(ん) だって」、「(ん) ですって」のように複合辞的に用いられるものがある。「(ん) だって」「(ん) ですって」は、いわゆる伝聞(情報伝達)と伝聞の確認(情報確認)の2つの用いられ方をする。これらは、それぞれ情報伝達および情報確認における流れを乱さないように用いられる。いわゆる「伝聞」は、伝聞だけを表すのではなく、伝達・確認というはたらきも合わせ持っている。一方、よく似たかたちで、「(ん) だって」「(ん) ですって」という複合辞が存在する。これには、意外・驚きを表すものと、発話をそのまま提示するものがあるとされる。それぞれ、引用・伝聞両方の特徴を持っているが、前者は伝聞的な性質が強く、後者は引用的な性質が強いと述べている。

許(1999)によると、文末の「って」は「と言っていた」や「と聞いた」、あるいは「というのはどういことですか」などの引用/伝聞、問い返しを表わすとされてきた。ここで許は、文末の「って」を「第三者の話しを伝える」、「相手に働きかける(問い返しまたは、相手の話に反発する)」及び「自分の考えを引用して説明する」という三つのグループの用法があると考えた。また、許も、文末の「んだって」について紹介し、文末の「って」と「んだって」の用法を比較し、その二つの相違を探った。

これらの先行研究を踏まえ、話しことばにおける文末「～って」は、様々な用法をもつ。これまで文末の「～って」の研究では、意味的用法を中心とした分析が行われてきたが、本稿で取り扱う文末表現の「～って」は、自然会話に見られる引用、伝聞、強調などの「～って」に焦点を当てながら、それらが伴う音調はどのような関連を持っているのかを分析する。

3. 調査方法

本稿では、守時(1994)をはじめ、山崎(1996)と許(1999)が指摘した文末の「～って」分類を参考にしながら、豊富な「～って」の実例を収集できるため、日本語日常会話コーパス(CEJC, 2022.03版)のデータを調査資料とする。文末の「～って」の分類に関して、一つ目はまず、引用用法として扱われる「第三者の話しを伝える」とされる「～って」、伝聞用法をもつ「～って」、「相手に働きかける(問い返しまたは、相手の話に反発する)」及び「自分の考えを引用して説明する」という下位用法をもつ「～って」を中心とする。コーパス・データから、家族間の会話場面による15～35分間の会話を選択することにした。今回取り扱う会話場面というのは、家族関係場面の親密関係を表す会話場面のことを指す(2018年から2020年の会話)。合計40件の会話から収集された「～って」データは445文抽出できた。次の段階は、文末の「～って」を文法カテゴリーにより整理した上、「～って」の音調による性質を探る。

4. 調査分析

40 件の家族間会話から、抽出された全データは 445 文があり、先行研究によって、3 つの主要な機能に分類することにした。総文数 445 文のうち、引用「～って」を含む文は、193 文で全体の 43.4%、伝聞「～って」を含む文は、241 文で全体の 54.1%、思考引用「～って」を含む文は 11 文で全体の 2.5% である。次に praat を使って、上記の発話データが用いられる「～って」の調査を行ったところ、以下のような結果が見られた。伝聞用法では、「だって」「んだって」「ですって」三つの分類に分け、詳細を見ていくと、「だって」を含む文は 55 文で、全体の 12.3% である。そして、「んだって」を含む文は 181 文で全体の 40.7% である。最後に、「ですって」を含む文は 11 文で全体の 2.5% である。

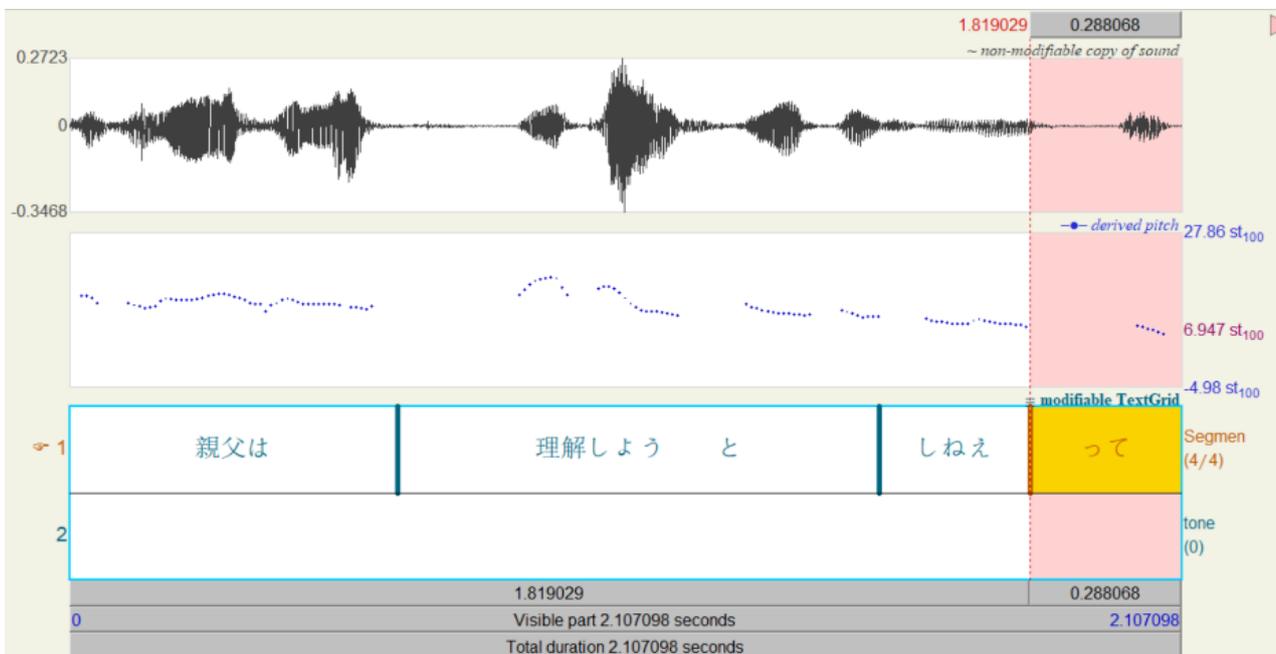
表 1. 収集データに基づいた「って」の分類及び使用率

	引用用法	伝聞用法			思考引用	総数
		だって	んだって	ですって		
数	193	55	181	5	11	445
使用率	43,4%	12,3%	40,7%	1,1%	2,5%	100%

4.1. 引用「～って」の音調

文末に現れる引用用法を持つ「～って」は、第三者から得た情報を伝えるために「～という」パターンの省略として限定されると指摘されている。抽出したデータから、家族間の会話にも、約 193 文があり、「～って」が多く用いられることがわかった。これは、話者が発言の源を追加して、聞き手がより確信できるようにする際に、より確実な事実や情報を示すものと考えられることができる。さて、次に引用として「～って」の音調はどうなっているか示していく。

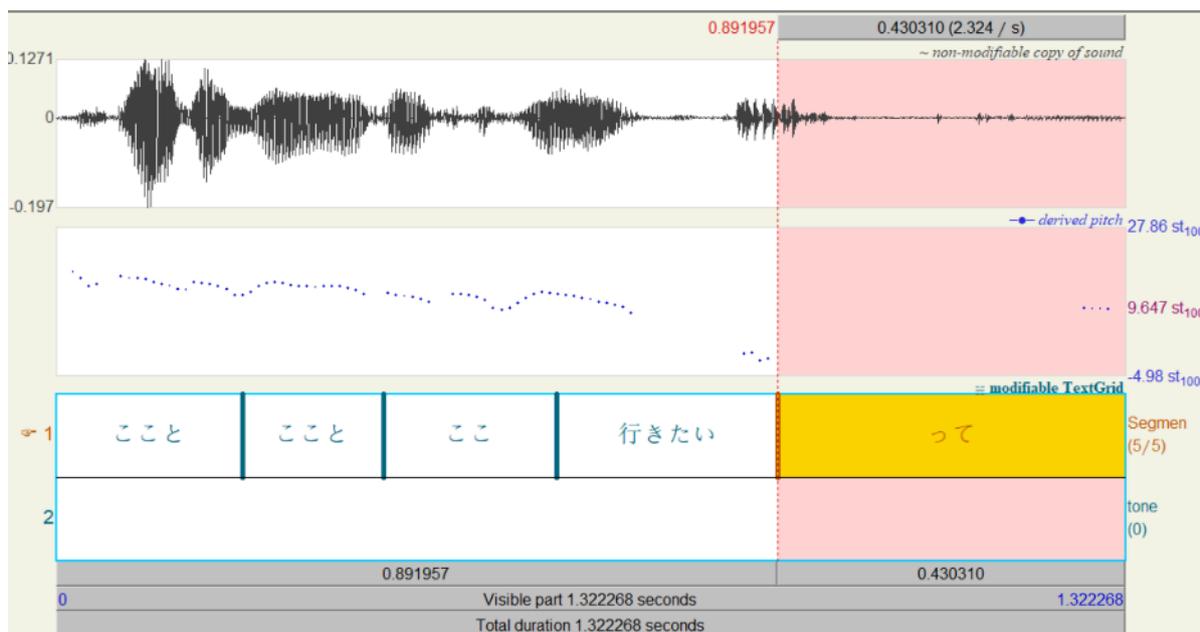
データ① IC03_紀世子「親父は(0.191)理解しようとしねえって」 (CEJC, K009_002:132)



データ①では、引用部分の「親父は理解しようとしねえ」が平坦な音調で発音され、引用の「～って」が同じように平坦な音調で発音された。また次に、データ②では、話し手の美乃梨は、お婆さんに修学旅行の経験話について伝える際、発話の「こことこことこ行きたい」という発話が、平坦な音調で発

音され、引用の「～って」も同じように平坦な音調で発音されている。

データ② IC01_美乃梨「ここと ことと ここ行きたいって」 (CEJC, K009_002:1313)



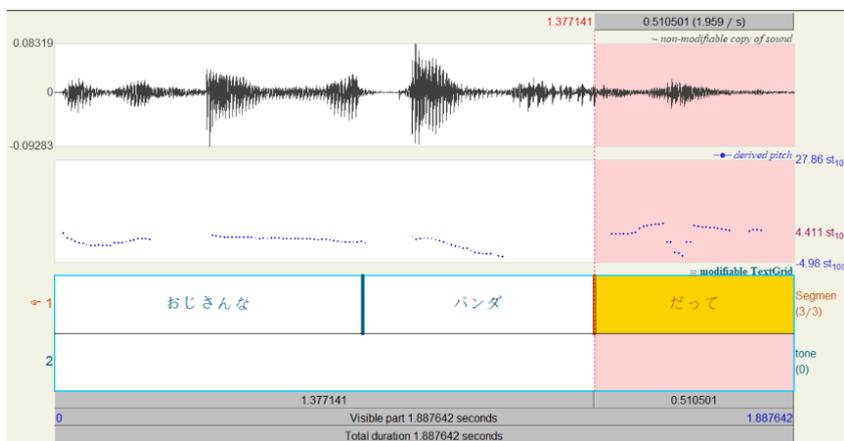
データ①と②の「～って」は、日常会話コーパスで見られた一般的な文末の引用形式である。引用の「～って」が、引用部分の最後の音調と同じように平坦な音調で発音されることが多い。

4.2. 伝聞「～って」の音調

次に、文末に現れる伝聞用法の意味をもつ「～って」は、複合辞の形式「んだって」と「ですって」に現れると指摘されている（山崎：1996）。日常会話コーパスでは、実際にどのような形を取るのか、データを抽出した結果、「だって」・「んだって」「ですって」という三つの形が多く見られたため、次は、「～って」の分類によって、音声データの特徴を見ていきたい。また、この「～って」という形式は、特に改まった場面の会話で示されるように、「んだって」自体が意外性を示すために使用されることが多い。

4.2.1 「だって」の音調

4.2.1.1 言い切りの「だって」



データ③ IC01_平沢「おじさんなパンダだって」

(CEJC, K012_004:1113)

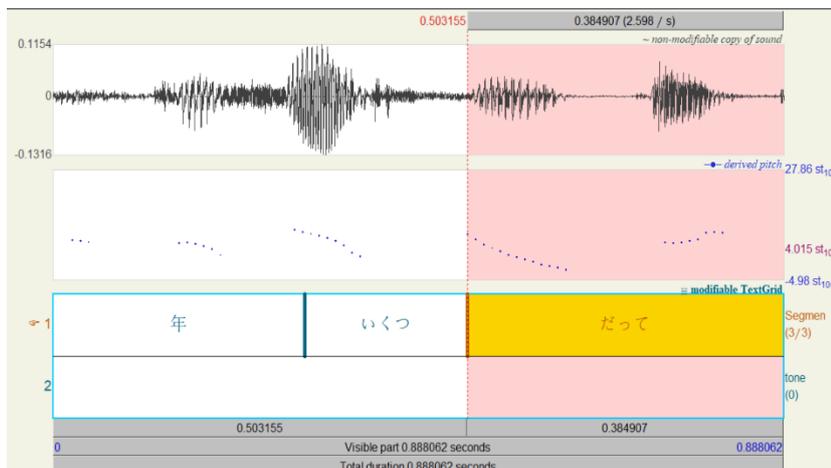
データ③では、話し手の平沢は、息子に「おじさんのパンダ」というキャラクターの名前について教えてあげる際、あのキャラは「おじさんなパンダですよ」というよ

うな紹介で、聞いた情報を伝える用法の「だって」で表現すると同時に、「だって」は引用部分の音調と同様で、平坦な音調で発音された。

4.2.1.2 問いかけの「だって」

データ④ IC02_父「いくつ 年いくつだって?」

(CEJC, K012_004:188)



データ④では、話し手の父は、相手に第三者の年齢について繰り返し問いかける際、「年いくつ?」の後に「だって」が続く。そこで、問いかけ「だって」の音調は、引用部分の音調よりも、上昇している。

4.2.2 意外を表す「～んだって」の音調

データ⑤ IC03_紀世子「チンパンジーがね 風邪引かないのは葱を食べるんだって」

(CEJC, K009_003:151)



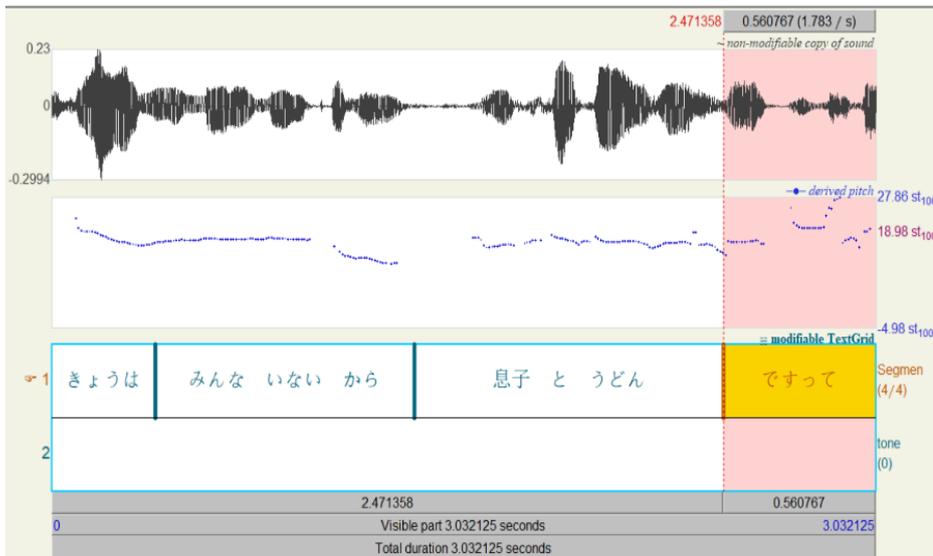
データ⑤では、話し手の紀世子は、チンパンジーが風邪を引かないコツというのは、葱を食べることだと聞いて、驚いた。これは、自分にとって、素晴らしい情報だと捉え、その意外性をもつ情報を相手に伝える際、「んだって」形式を用いた。その、音調は、引用部分と同じような音調で発話された。

4.2.3 からかいを表す「ですって」の音調

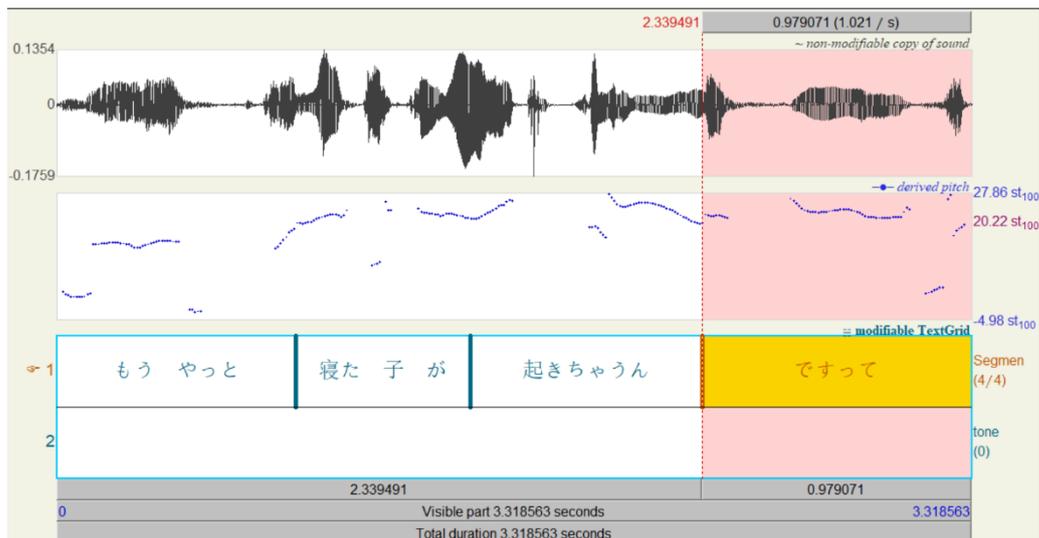
以下のデータ⑥では、話し手の奈々恵は、相手が SNS にうどんの写真を投稿したことに対して、自分が投稿したかのように、「きょうはみんないないから息子とうどんを食べますよ」というタグをつけるかのように想像した。そのことをからかいを表すようなコメントとして付け加えたものとして、「ですって」を用いた。引用部分の「うどんです」に高い音調が見られ、その後の「～って」は平坦な高さに戻っている。

データ⑥ IC02_奈々恵 「きょうは みんないないから(1.199)息子とうどんですって」

(CEJC, K013_011:1714)



データ⑦ IC01_川原「もう)やっとな寝た子が起きちゃうんです :って」(CEJC, K011_015: 2005)

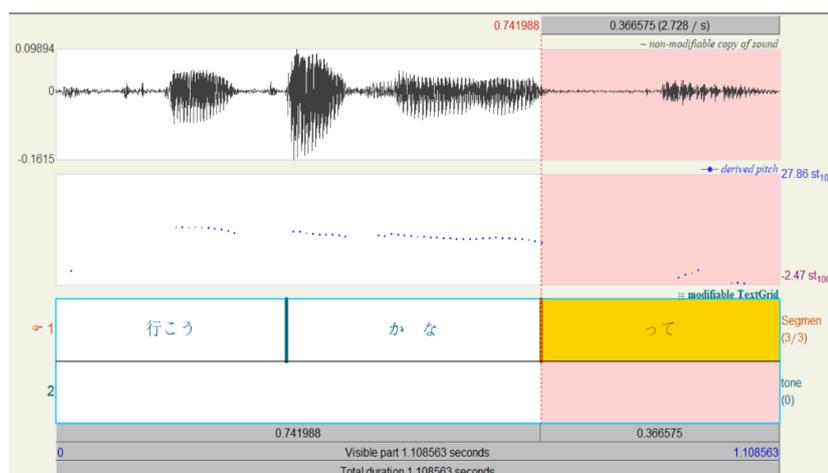


データ⑦では、話し手の川原は、夜遅いのにまだ帰ってこない息子のことを心配しすぎている夫の反応をからかうつもりで、「やっとな寝た子が起きちゃうんですね」ということを言う際に、「ですって」を用いた。データ⑥と異なり、ここでは引用部分の後半「寝た子が起きちゃうんです」の部分がやや高い音調で話され、「～って」は、元の音調（「もうやっとな」の音調）に戻っていることが分かる。

4.3. 思考引用「～って」の音調

文末の思考引用「～って」には、話し手の個人的な考えをはじめ、判断、推測のような主観性を表す「～と思う」が強く示すと同時に、話し手が感じているプラス・マイナスの感情も表現されている。自分の考えや気持ちを相手に伝える際、考えたことなどは、引用形式として用いられる特徴がある。単独の「って」だけでなく、話し手の意図によって、終助詞「かな・な」の使用と共に用いられる。全体のデータのわずか2.5%だが、下降の音調で発音されると相手に念を押していると考えられる。次の例を見てみよう。

データ⑧ IC03_つや子「だから入り：十八で十八日曜日だから十八 伊勢原:(1.925)行こうかな：
って」
 (CEJC, K009_016a: 273)



データ⑧では、話し手のつや子は、相手に個人の予定を伝えようとする際、引用部分の「伊勢原に行こうかな」の後に、「～って」を用いて、引用部分の音調よりも、低く発音した。思考引用の「～って」の音調は、下降する傾向がみられる。

5. まとめ

今回の調査結果により、現代日常会話コーパスを通じて、主に家族間の会話を中心とした実例で用いた文末表現「～って」の出現の特徴は、特に引用、伝聞、思考引用の3つの用法として多く用いられる「～って」が持つ特殊な音調も指定することができた。話し手は聞いた情報を提供すると同時に、自分の意見や判断などを素直に伝え、意図や感情の表現で、「～って」に音調を大きく影響されている。さらに、音調により、「～って」は、単に文法カテゴリーを担う文末形式だけでなく、円滑なコミュニケーションを支える機能として話し手の意図や感情を表す終助詞のような役割を持つことが明らかとなった。

参考文献

- 加藤陽子 (2010) 『話し言葉における引用表現：引用標識に着目して』 くろしお出版
 三枝令子 (1997) 「って」の体系『言語文化』編Vol.34, p.21-30
 田野村忠温 (1990) 『現代日本語の文法 I 「の」の意味と用法』 和泉選書
 許夏玲 (1999) 「文末の「って」の意味的と談話機能『日本語教育』日本語教育学会学会誌委員会 編Vol.07 p.81-90
 丸山直子 (2002) 「話しことばの助詞：「って」を中心に」『日本文学』(98)：117-131
 守時なぎさ (1994) 「話し言葉における文末表現「ッテ」について『筑波応用言語学研究』1: 87-99
 藤田保幸 (1988) 「『引用』論の視界」『日本語学』7(9)：30-35
 山崎誠 (1996) 「引用・伝聞用法について」『国立国語研究所研究報告集』17巻：p.1-22

用例出典

国立国語研究所『日本語日常会話コーパス (CEJC)』, 2022 年度版